

《担当者名》宮本 雅央 m-miyamoto@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本科目は、地域福祉の主体や対象、地域福祉に関わる組織や団体および専門職の役割や実際について学習する。また、地域福祉におけるネットワークづくりや組織化の意義と方法や、地域福祉の基盤づくりなどの推進方法についても学習する。これらを通して、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念を理解する。また、地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制とその役割、地域福祉計画をはじめとする福祉計画の意義や目的及びその展開について理解する。そして、包括支援体制の考え方と多職種及び他機関協働の意義と実際について理解することと、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士や精神保健福祉士の役割を理解することを目指す。

【学修目標】

- 1) 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向を踏まえ、地域を基盤とするソーシャルワークの基本的な考え方を説明できる。
- 2) 地域福祉における主体と対象の概念を理解し、住民の主体形成や住民参画の方法、地域ネットワーク構築の過程を想定できる。
- 3) 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解し、説明できる
- 4) 地域福祉の基盤づくりの視点を理解し、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を想定できる。
- 5) 包括的支援体制の考え方と、多職種及び他機関協働の意義を理解した上で、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の目的・ねらい、進め方及び評価基準の詳細等を理解する。地域福祉を考える意義を理解する。	宮本
2	地域社会の変化と 地域生活課題 1	地域社会の概念や理論を理解し、現代的な地域社会の変化を理解する。	宮本
3	地域社会の変化と 地域生活課題 2	地域生活課題の現状と社会的孤立について理解する。	宮本
4	地域における包括的支援体制 1	包括的支援体制構築に向けた施策を理解する。 (地域包括ケア, 生活困窮者自立支援)	宮本
5	地域における包括的支援体制 2	包括的支援体制構築に向けた施策を理解する。 (地域共生社会の実現に向けた取り組み)	宮本
6	地域福祉ガバナンス	ガバナンスの考え方を理解し、地域福祉ガバナンスを進める取り組みを理解する。	宮本
7	多機関協働・多職種連携	多職種連携や多機関協働を促進する仕組みを理解する。	宮本
8	地域福祉の概念と理論	地域福祉の概念や、地域福祉をめぐる展開と理論的な視点について理解する。	宮本
9	地域福祉の歴史 1	戦前の日本や欧米における地域福祉の源流を理解する。	宮本
10	地域福祉の歴史 2	戦後から近年の地域福祉の政策化に至る変遷を理解する。	宮本
11	地域福祉の推進主体 1	地域福祉の推進主体の一つである社会福祉法人・NPO法人等について理解する。	宮本
12	地域福祉の推進主体 2	地域福祉の主体形成の過程や福祉教育について理解する。	宮本
13	地域を基盤としたソーシャルワーク 1	地域を基盤としたソーシャルワークの概念を理解する。	宮本

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	地域を基盤としたソーシャルワーク 2	住民の主体形成や他職種連携を踏まえたアプローチを理解する。	宮本
15	地域を基盤としたソーシャルワーク 3	個と地域の一体的支援の展開を理解する。	宮本
16	災害時のソーシャルワーク 1	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援の基盤となる法制度を理解する。	宮本
17	災害時のソーシャルワーク 2	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援における多職種連携を理解する。	宮本
18	福祉計画の意義、策定と運用 1	各種福祉計画の定義や目的、機能を理解する。	宮本
19	福祉計画の意義、策定と運用 2	福祉計画の主体や策定過程、評価方法を理解する。	宮本
20	福祉行財政システム 1	行政の骨格と国・地方公共団体の構造と福祉行政に関わる体制を理解する。	宮本
21	福祉行財政システム 2	福祉行政における国・都道府県・市町村の役割や権限、近年の地方自治推進の潮流を理解する。	宮本
22	福祉行財政システム 3	福祉行政に関わる財源や組織、それらにおける専門職の役割を理解する。	宮本
23	地域福祉の基盤づくり 1	地域福祉における地域住民の参画を理解する。	宮本
24	地域福祉の基盤づくり 2	住民主体の活動を推進する考え方を理解し、中間的支援組織や側面的支援を理解する。	宮本
25	地域福祉の基盤づくり 3	CSRの概念や社会的企業（起業）、農福連携などの事業展開を理解し、地域福祉の推進との関連を理解する。	宮本
26	地域福祉の基盤づくり 4	社会資源開発の考え方と実践を理解する。	宮本
27	地域福祉プログラム 1	社会的孤立や社会的排除を克服するための地域福祉プログラムを理解する。	宮本
28	地域福祉プログラム 2	グループを活用した活動や支援の視点と様々なプログラムによる特性を理解する。	宮本
29	地域福祉ネットワークづくり 1	地域におけるネットワークやプラットフォームの考え方を理解する。	宮本
30	地域福祉ネットワークづくり 2	ネットワークづくりやケアリングコミュニティ形成の過程を理解する。	宮本

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・授業への参加状況（20%）、各回での提出課題（20%）、定期試験（60%）により総合的に評価する。
- ・授業への参加状況は、毎回の講義終了後に提出するリアクションペーパーで確認する。
- ・その他、時間外の学修や任意提出のレポート課題も評価対象とする。
評価基準の詳細については、第1回講義で説明する。

【教科書】

一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規

【参考書】

- 岩間伸之・原田正樹（2012）『地域福祉援助をつかむ』有斐閣
 岡村重夫（2009）『地域福祉論 新装版』光生館
 山辺朗子（2011）『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』ミネルヴァ書房
 岩田正美（2008）『社会的排除』有斐閣
 勝部麗子（2016）『ひとりぼっちをつくらない「コミュニティソーシャルワーカーの仕事」』全国社会福祉協議会
 西智弘 編著（2020）『社会的処方 孤立という病を地域のつながりで治す方法』株式会社学芸出版社
 宮嶋望（2014）『いらぬ人間なんていない 日本一のチーズを作った農場物語』いのちのこば社フォレストブックス

【備考】

この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「地域福祉と包括的支援体制」に該当する。教職課程（公民）では、教科に関する科目の「社会学，経済学（国際経済を含む）」に該当する。

【学修の準備】

- ・ 各回の内容に対応する教科書の該当箇所を一読し，予習して授業に臨むこと。
- ・ 定期試験は授業で配布した資料を出題範囲とするため，毎回の講義で配布する資料を保管し復習すること。
- ・ 随時参考となる文献等を紹介する。時間外に読むなど文献と合わせて受講することでさらに理解が深められる。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4,2